

氏名	小武守 研 二
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 130 号
学位授与の日付	昭和39年 3 月31日
学位授与の要件	医学研究科外科系整形外科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	合成樹脂球挿入による人工結合組織嚢に関する研究
論文審査委員	教授 児玉 俊 夫    教授 砂田 輝 武    教授 小川 勝 士

#### 学 位 論 文 内 容 要 旨

動物皮下に起した異物性炎によつての関節および結合組織の病態生理の研究，抗炎症剤の炎症抑制試験が数多く行われて来ているが，私はビニールスポンジ，ガラス管，有孔ポリエチレン球を用い次の如き結論を得た。

- 1) スポンジペレットテストでの線維芽細胞抑制作用はプレドニゾロン，OXの方がレゾヒンより強かった。
- 2) ガラス管皮下挿入により管内陰圧によつて脂肪様組織の形成がみられた。
- 3) 有孔ポリエチレン球挿入により関節嚢に似た人工結合組織嚢を得たが，墨，トリパン青と同時に上記薬物を注入すると，その貪喰抑制作用はレゾヒン，OXの方がプレドニゾロンよりも強かった。

## 論文審査の結果の要旨

小武守研二提出の「合成樹脂球挿入による人工結合組織に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

慢性関節リウマチのリウマチ性炎症の全身活動と局所関節での活動は互に悪循環をなしている。ステロイドホルモンが普及してより、その局所関節内注入が推奨されて来たが、リウマチ性炎症が慢性化していると、もはやその局所注入も効が薄くなる。関節リウマチの滑膜の病態生理は案外解明されていない。

著者は、滑膜及び関節嚢を人工的に動物で作り、関節滑膜の諸種炎症と、それに対する薬剤の局所作用を実験した。

著者の有孔ポリエチレン球皮下挿入により作られた結合組織嚢は、従来のこの種のものの中では最も関節嚢及び滑膜組織に似ており、かつ有孔ポリエチレンの中に注射して、恰も人の関節の中に諸種ものを注入した如き変化を実験できた。

このことは、慢性関節リウマチの抗リウマチ剤の研究にも役立つ所が大きい。

以上の通り本論文は、新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。